

授業概要

この授業は、保育の質を健康教育学の観点から考究するものです。乳幼児期に多くの時間を割きますが、広く胎児期から学齢期にかけての、子どもの育ちの概論や健康教育学の諸問題を、theory, evidence, experiences, episodes, etc. から眺め、援助の心もちについて検討を加えてゆきます。近年施行された、成育基本法、子ども・子育て支援新制度、幼稚園教育要領、保育所保育指針、学習指導要領（小中高）では、子どもの育ちや学びの連続性（切れ目なく支援、円滑に接続）が、従来以上に重んじられています。そうした潮流を鑑み、この授業でも、「世界最高水準の小児医療・保健環境の中で生まれ育つ日本の子どもたちを、どうか良い形で学校教育（学校保健安全領域）に繋げてしてほしい」という願いを込めて、話をしてゆきます。受講を通じ、子どもの育ちを見つめる確かな眼が涵養され、目線の高い保育者・教育者を目指す一助となれば幸いです。

授業計画

第1回	総説
第2回	日本の小児医療・保健環境
第3回	現代社会と子どもの健康（健康のとらえ方、影響要因、健康生成論）
第4回	現代社会と子どもの健康（健康課題の時代推移、運動・スポーツと身体の一極化）
第5回	心を育む（ヒトの自己活動、探索、認知）
第6回	心を育む（情動と気質、情緒の発達、情緒と社会性の関連）
第7回	心を育む（傾聴と共感、家庭への対応、異・多職種の協調）
第8回	心を育む（非日常時の対応 -医師、カウンセラー、養護教諭と共に行うこと-）
第9回	遊びの理解（意義と性格、発達の様相、見守る側の心もち）
第10回	遊びの理解（認知・非認知的能力とライフスキルの関連）
第11 ～12回	アクティブラーニング：第10回までの内容に基き、レポート作成や議論を実施する。
第13回	生活習慣の獲得と援助（安心・安全教育に力点を置く）
第14回	食育（共食、朝食・農業林業体験、子育て支援）
第15回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、の中での「健康・安全」（改訂のねらい、の理解）
第16回	試験

到達目標

下記の理解を深めること。
 ・まずは表情豊かに子どもの心を受けとめること、そして、吟味された遊びの環境を用意すること。これらのことが、子どもの身体的、精神的、社会的な健康を育む上での土台となる。
 ・幼児期のスキル形成はその後の人的資本形成の基礎をつくる。学びは更なる学びへとつながる。幼児期への投資は重要である。（2点目は Heckman and Masterov, 2007. より。）

履修上の注意

特にありません。

予習・復習

到達目標を念頭に参加（メモ、思考、議論）し、実践に生かすこと。予習は必要ありません。

評価方法

受講態度（20%）、アクティブラーニング（40%）、学期末試験（40%）

テキスト

全てこちらで用意します。